

令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区： 檜山地区
- 2 事例報告学校名： 乙部町立明和小学校
- 3 報告者職・氏名： 校長 晴 山 泰 文
- 4 キーワード： 地域・家庭との連携 地域に根ざした教育

1 はじめに 乙部町及び学校の概要

乙部町は渡島半島の西方、檜山管内の南部に位置する。南は江差町、北は八雲町熊石地区に接し、東は乙部岳(1016.9m)がそびえている。西は奥尻島が浮かぶ日本海に面し、美しい夕日が見られる。

乙部岳は別名、九郎岳とも呼ばれる。九郎岳の呼び名は、源義経の仮名の九郎義経が由来である。源頼朝から追われる身となった義経は奥州へ逃れ、蝦夷地の乙部岳へ逃れた、というのである。また、乙部岳(九郎岳)を水源とする、町の中央を流れる「姫川」は、義経と共に蝦夷地へ逃れたとされる静御前に由来している。

本校は、町の北部に位置し、北海道指定天然記念物である「鮪(しび)の岬」(安山岩柱状節理)から続く高台に位置している。学校から徒歩5分の所にある桜の名所「しびの岬公園」がある。

児童は、「しびの岬の桜を守る会」の会員と共に、毎年桜や、猛烈な日本海から吹き付ける海風から桜を護るための黒松などの植樹活動を行っている。

学校のある豊浜地区は、スケソウダラやイカ漁で栄えてきたが、水産資源の減少による主産業の低迷から、過疎化、少子高齢化が進み、現在の児童数は9名である。来年度はさらに児童数が減少し、令和6年度末(令和7年3月)に閉校が決まっている。



乙部岳を源にした姫川が流れる本町地区



北海道指定天然記念物「鮪(しび)の岬」

2 地域や家庭との連携、農業体験等の教育活動

乙部町教育のめざす姿の基本理念は「ふるさとを愛し、活力に満ちた人間性豊かな町民を育てる」であり、基本姿勢として「創意と知性に満ちた豊かな教養を高め、乙部に根ざした創意ある町民を育てる」を掲げている。

本校では、極小規模校のメリットを最大限に生かすため、豊かな自然環境をはじめとした様々な地域素材を生かした教育活動を編成、実施している。

(1) さばいて干して「棒だら」づくり

「棒だら」はスケソウダラの干物で、むしっておやつにしたり、もどして漬物とまぜ合わせたり、煮付けにしたりする。

乙部町はスケトウダラ漁が盛んである。毎年、漁業士(ひやま漁協)からスケソウダラを児童の学習用に提供していただき、「棒だら」を作っている。

スケソウダラをさばく時の主役は高学年である。低学年は助けながら作業をする。高学年は、

スケソウダラの腹を開く時に内蔵を傷つけないようにすることや、頭を落とす時、包丁に力をどう加えるかななどを教える。

作業の後、お母さんたちがスケソウダラの頭を使って三平汁を作ってくれるのも楽しみの一つである。

みんなでさばいたスケソウダラは、きれいに洗ってひもを通し、児童玄関の横につるす。2～3か月、潮風にあてて干すと、かっちかっちになる。完成した「棒だら」は家に持って帰り、おやつとして食べる。



スケソウダラをさばく

(2) 種から育て、そばの実を挽いてそば打つ体験

乙部町の内陸部では、昔からそばを育て、食するという文化がある。2月に町内の富岡スキー場を会場に「シバレふれあい富岡」という行事が開催される。この行事の昼食には地元富岡地区女性会の手打ちそばが振るまわれる。

本校では、町のそば打ちを題材に地域に根ざした創意ある学習に取り組んでいる。7月にそばの種まきをし、定期的に高さを測る。そばの成長の早さには毎年驚かされる。

児童は、10月に大きく育ったそばを刈り取り、実を乾燥させる。十分に乾燥したそばの実は11月に石臼で粉にする。

12月に入ると、地域のそば打ち名人を講師にそば打ち体験をする。つゆもそば打ち名人が作ったつゆである。

そば打ち体験学習の最後は試食である。師匠のそばと自分で打ったそばの食べ比べである。児童の性格によるのか、名人ぐらいの細さのそばに切れる児童もいるし、うどんより太いそばになってしまうのも面白い。

また、お土産に名人のそばと、自分で打ったそばを持って帰る。児童は学校で試食する分はほんの少力で、ほとんどを家族のお土産にする。家族への思いやりが見られて、うれしい気持ちになる。



スケソウダラを干す



3 おわりに

学力向上や働き方改革で、学校行事の精選や授業改革が求められる中、地域に根ざした教育が隅に追いやられてしまっているような気がする。

本校の運動会は「地域ぐるみの大運動会」であり、地域の一大行事であった。しかし、コロナ禍で地域の皆さんのご来場を遠慮いただいた時は、しかたないとは言え、「寂しい」という声を何度も聞いた。子どもは地域の中で育つ。ふるさとを愛し、活力と人間性豊かな人を育てるように、地域の特色を存分に生かした教育を継続していきたい。